

BIOSISデータベース・システム

多喜, 正城
大阪大学大型計算機センター

<https://doi.org/10.15017/1468144>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 20 (1), pp.1-24, 1987-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



BIOSIS データベース・システム

多喜 正城*

1. BIOSIS とは

BIOSIS は米国フィラデルフィアにある BioScience Information Service の略称であり、1926年に創立された機関であります。BIOSIS より提供されるファイルとは、生命科学の全領域にわたる文献ファイルであり、収録資料により2つの部分ファイル、BA、BA/RRMがあります。BA は 100 カ国以上で出版されている9000種の学術雑誌であり、それらは原著論文や、学位論文で収録文献は年間およそ20万件であります。一方、BA/RRM は、単行本、技術レポート、会議資料と抄録、文献レビュー、文献リスト、単報といった出版物で年間およそ16万件収録されています。発行頻度は、BIOSIS Previews の磁気テープにより、BA、BA/RRMとも月2回で、年間では両方合わせて48回発行されます。

BIOSIS ファイルは、生命科学の全領域をカバーし、生物学や生体臨床医学における実験報告、野外調査報告、臨床的および理論的研究に関する報告および文献を収録しており、

- 1) 伝統的生物学分野 動物学、植物学、微生物学など
- 2) 関連分野 動物植物科学、農学、薬学、生態学など
- 3) 学際的分野 生物化学、生物物理学、生物工学など
- 4) 方法論や装置分野 診断、処置、装置の新技术など
- 5) 環境問題分野 環境変化に対する分散、影響の予測など
- 6) 生命科学の歴史および哲学、生命科学情報の管理と検索などが対象分野となります。

収録文献の発行地域分布は

ヨーロッパ、中東	50%	中南米	6%
北米	25%	アフリカ	4%
アジア・オーストラリア	15% (日本 8%)		

なお、大阪大学大型計算機センターには、1982年度版より収録しております(アブストラクトは含まれません)。

2. BIOSIS ファイルの収録内容

(1) BN: BIOSIS 抄録番号

8桁の数字コード、先頭2桁が巻名、後6桁が通し番号となっています。

昭和61年7月23日受理

* 大阪大学大型計算機センター

(2) CD : 雑誌コード

CODEN又はNUMBENがそれに当たります。CODENはASTM (American Society for Testing and Materials)により定められたアルファベット文字による雑誌識別コードで頭から5桁で表示されています(現在は、ASTMからCAS(CHEMICAL ABSTRACTS SERVICE)に移管されている)。NUMBENはBIOSISが非逐次刊行物に対して与えた受け入れ番号。

(3) VL : IS : YR : PG : LG : 巻、号、刊行年、ページ、使用言語

論文やレポートの掲載されている雑誌等の巻、号、刊行年(西暦年)、ページ、使用言語(言語は言語コードで表わされます)。

(4) S2 : 出版物名(掲載雑誌名)

ANSI (American National Standards Institute)による省略形に従った形で収録されています。

(5) AU : 著者名

個人著者名と、団体著者名があり、個人の場合、10名までは、原文に記載の順に収録、10名以上は9名まで記され、ET ALが加えられます。また、団体名はANSIに従って収録されています。

(6) OG : 著者の所属機関

第一著者の所属機関名とその所在地が収録されています。所属機関、所在地、国名の順

(7) TI : 標題

英語による文献の標題、原論文が英語以外の場合も英語に訳されています。綴りに英式、米式がある場合は米式となります。

(8) AW : 付加語(キーワード)

Concept Heading (概念見出語) : 生命科学的概念に基づいて分析して付与されたキーワードと Biosystematic Heading (生物分類見出語) : 生物分類に従って付与されたキーワードと、自然語キーワード(標題抽出語とディスクリプタ)があります。

(9) CC : Concept Code (概念コード)

CCnnnnn の型式で与えられ、生物学的概念を表わす5桁の数字によるコードであります。概念コードのレベルは第一レベルに*が付き、その論文の中心主題であることを示しており、各論文には1つだけ存在します。第二レベルには-が付き、第一と同様、その論文の主要概念であります。第三レベルには何も付かず、補助概念であります。

(10) BC : Biosystematic Code (生物分類コード)

BCnnnnn の形式で与えられ、生物の系統的分類に従って定められた5桁の数字によるコードであります。

3. BSAUTO について

本来、BIOSIS 文献検索には NEC 提供のデータシステム <DATA710> (D710) を用いてデータベースの検索を行います。検索だけのために D710 のコマンドや操作法を習得するのに無駄が感じられます。そこで、大阪大学大型計算機センターでは、D710 を知らなくても BIOSIS 文献検索が容易にできるように、ダイアログ方式を取り入れた検索システム BSAUTO を開発しました。これは、文献検索とは、基本的に、BROWSE (通覧)、SEARCH (検索)、DISPLAY (表示) の三つのカテゴリから成ると考え、通常は、

BROWSE → SEARCH → DISPLAY → END

の順にカテゴリが進むものとし、各カテゴリの終わりに NEXT を入れれば矢印の方向にカテゴリが進むように設計されています。

また、三つのカテゴリへの入口は、ダイアログ方式による一文字入力ですみます。

3.1 BSAUTO の呼びだし

BIOSIS 文献検索システムは、TSS で起動します。SYSTEM? (システム選択レベル) または、* (ビルドモード) で BSAUTO と入力します。システムからは、WELCOME メッセージと著作権に注意というコメントが返って来ます。しばらくすると、「つぎのレコードセットから番号で希望のレコードセットを選べ」というメッセージが出され、レコードセットのメニューが出力されます。RECORDSET NUMBER? の所で希望のレコードセット番号を入れます。選択終了はリターンキーをいれます (注意: この時、メニューにない番号を入れると D710 のメッセージが出力されます。例 D710-A211 F RECORDSET NAME IS UNKNOWN.

また、レコードセットの選択は 6 回までです。7 回 (途中でエラーしても、その回数は含まれます) 以上になりますと、それまでに選択したレコードセットで RETRIEVE (検索手続き) に入ります。

○ 実行例で、下線は端末からの入力を示します。

```

SYSTEM?BSAUTO          ----- BIOSIS データベース・システムの呼びだし
*****
* WELCOME TO BIOSIS *
*****
*****
* CAUTION !! FOR AN INFRINGEMENT OF COPYRIGHT *
* NEVER OUTPUT TO FLOPPYDISK OR DISK-FILE ETC.! *
*****
WAIT A MINUTE

CHOOSE THE RECORDSET NAMES WITH THE NUMBERS (RETURN-KEY TO EXIT).
NO RECORDSET NAME      COMMENT
#01 BA85                BA    (1985. VOL79 & VOL80)          : 220008REC
    
```

```
#02 RRM85          BA/RRM(1985. VOL28 & VOL29)      : 220004REC
#03 BA86           BA (1986. VOL81#1-5)            : 29376REC
#04 RRM86          BA/RRM(1986. VOL30#1-5)        : 21084REC
#05 BACURR         BA (1986. VOL81#5)             : 9792REC
#06 RRMCURR        BA/RRM(1986. VOL30#5)          : 10122REC
```

RECORDSET NUMBER?

3

----- レコードセットの選択

RECORDSET NUMBER?

4

RECORDSET NUMBER?

↓

----- Return-key 入力によりレコードセットの選択終了

STARTING OF RETRIEVE PROCEDURE.

----- 選択されたレコードセットを元に検索を始める

例- 3.1.1

3.2 BROWSE (通覧)

3.2.1 BROWSE コマンド

BSAUTO による通覧は、キー項目と呼ばれる項目に含まれるキーワードで通覧します。このキーワード通覧は、項目単位でおこないます。

BROWSE, SEARCH OR END ? <B/S/E> --- レコードセットを選択した直後のメッセージ

または、

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

上のメッセージに対して、BROWSE の B を入力しますと、始めに通覧すべきキー項目を尋ねてきます。

```
ENTER ITEM NAME ---> AU(AUTHOR), OG(ORGANIZATION),
TI(TITLE), S2(PUBLICATION), CC(CONCEPT CODE),
BC(BIOSYSTEMATIC CODE), AW(ADDED WORD) OR RETURN-KEY(ALL OF ITEMS)
```

上のキー項目は、次の通りであります。省略形で入力します。

```
AU:AUTHOR          ... 原著者名
OG:ORGANIZATION    ... 第一著者の所属機関
TI:TITLE           ... 標題名
S2:PUBLICATION     ... 出版物名
CC:CONCEPT CODE  ... 概念コード
BC:BIOSYSTEMATIC  CODE ... 生物分類コード
AW:ADDED WORD      ... 付加語
```

RETURN-KEY: ALL OF ITEMS ... すべての項目について出力する場合

この内のどれかを選んでその省略形で入力します。すると、システムからは、通覧したいキーワードの入力を要求して来ます。

```
ENTER A KEYWORD OF YOUR INTEREST.
NEVER SKIP !!
=>
```

このとき、必ず何かキーワードを入力して下さい

(注意：まちがって、リターンキーを入力しますとしばらくの間 D710 の世界に入り込みます。

例 D710-B315 F YOU CAN'T SKIP THIS PARAMETER HERE.

この時は、もとの戻るまでリターンキーを続けてください)。

指示したキーワードが、項目の中で、そのキーワードと前後 7 個までが通覧番号 (#nnn) と共に一覧表として出力されます。しかし、合致したものがない場合は、指示したキーワードに近い前後 7 個までの表示がなされます。ところで、この # で始まる通覧番号は、検索する場合、色々役に立ちますので、検索する前に通覧をしておき、この通覧番号で検索すれば、速く、確実にヒットします。

3.2.2 キーワード通覧

キーワードで通覧を行う場合、つぎのことを知っておいてください。AU(AUTHOR)：原著者以外は、先頭の一単語がキーワードとなります。例えば、OG(ORGANIZATION)：所属機関が大阪大学であるとしみますと、

```
ENTER ITEM NAME ---> AU(AUTHOR), OG(ORGANIZATION),
TI(TITLE), S2(PUBLICATION), CC(CONCEPT CODE),
BC(BIOSYSTEMATIC CODE), AW(ADDED WORD) OR RETURN-KEY(ALL OF ITEMS)
OG
ENTER A KEYWORD OF YOUR INTEREST.
NEVER SKIP !!
=>
OSAKA UNIV.
NO. RECORD KEYWORD (ITEM=ORGA)
#025      2  ORYX
#026      1  URZSAGUS
#027      2  US
#028      1  USA-KA
#029      1  OSAGE
#030      2  OSAK
#031     1827 OSAKA
#032      1  OSAKA-553
#033      2  OSAKA-CITY
```

```
#034      42  OSAKA-FU
#035      1   OSAKA-GODOCHOSHA
#036      1   OSAKA-ICHIRITSU-CHUO
#037      1   OSAKA-KAISEI
#038      1   OSAKA-KU
```

のようになり、大阪大学はありません。すなわち、OSAKAとUNIV.は一単語ずつ別々のキーワードとしてデータベース化されていることになります。では、” ”または’ ’でくくればどうかと言いますと、この場合は、”または’が通覧キーワードの1部とみなされ”、’が先頭にあるものから通覧します。では、なぜAUTHOR(AU)の場合はTANIGUCHI Tでよいのかと言いますと、この場合、名前と名前の区切りは、Biosisファイル内においてデータベース化なされておりますのでうまく通覧できます。ただし、”TANIGUCHI T”として通覧しますと、これは、上記のようになります。後で説明のある、検索の時に用いる前方一致や後方一致のための記号\$の利用は、どうかと言われることもありますが、通覧ではそれらもすべて記号とみなします。

以下に、通覧の例を示します。

3.2.3 通覧の例

```
BROWSE, SEARCH OR END ? <B/S/E>      ---- カテゴリの入口
B                                          ----- BROWSE (通覧) の指定 ( KEYWORD による通覧 )
ENTER ITEM NAME ---> AU(AUTHOR), OG(ORGANIZATION), ---- 通覧すべき ITEM (項目)
TI(TITLE), S2(PUBLICATION), CC(CONCEPT CODE),
BC(BIOSYSTEMATIC CODE), AW(ADDED WORD) OR RETURN-KEY(ALL OF ITEMS)
```

```
AU                                          ----- ITEM は原著者(AU)についての情報を得る。
ENTER A KEYWORD OF YOUR INTEREST.
NEVER SKIP !!
```

=>

```
TANIGUCHI T                                ---- 通覧すべきキーワードの値を入力する。
NO. RECORD KEYWORD (ITEM=AUTH)           ---- アイテム名 AUTH(=AUTHOR : 原著者)
#001      8  TANIGUCHI I
#002     30  TANIGUCHI K
#003     17  TANIGUCHI M
#004      1  TANIGUCHI M H
#005     20  TANIGUCHI N
#006      1  TANIGUCHI R
#007     11  TANIGUCHI S
#008     40  TANIGUCHI T
#009     17  TANIGUCHI Y
#010      2  TANIHATA S
#011      1  TANI I  A
#012      6  TANI I  H
```

```
#013      3  TANJI  K
#014      6  TANJI  T
#015      1  TANIKAWA H
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
```

例- 3.2.1

3.3 SEARCH (検索)

3.3.1 SEARCH コマンド

検索も始めに選んだレコードセットに対して行われます。

```
BROWSE, SEARCH OR END ? <B/S/E> --- レコードセットを選択した直後のメッセージ
```

または、

```
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
```

で SEARCH の S を入力します (前のカテゴリが BROWSE でしたら、N で SEARCH のカテゴリになります)。すると、次のダイアログになります。

```
DO YOU KNOW HOW TO SEARCH?
YES OR NO? <Y/N>
```

このメッセージに対して YES またはリターンキーを入力すれば (NO を入力すれば、INQUIRY に対する簡単な例示を出力してきます)、

```
INQUIRY?
```

と応答してきます (前のカテゴリが SEARCH か DISPLAY であれば、INQUIRY? からはじまります)。

ここから、検索を始めます。検索毎にシステムからは、ANSWER NUMBER (応答番号) と件数を出力してきます。これを参考にして希望するデータにしぼり込んで行きます。また、SEARCH (検索) を終了する場合は、この INQUIRY? の所でリターンキーを入力しますと、次のカテゴリへの入口になります。

検索方法は、キーワードを用いて行い、このキーワードの用い方は、

1) キーワードのみを入力し、選んだレコードセットの全てのデータから該当するキーワードを検索する方法。これは、一番簡単ですが、レコードセットが多数にまたがる場合、非常に効率が悪く、時間がかかりますので、お奨めしかねます。

```
INQUIRY? MOLECULAR          ----- 全項目の中からキーワードがMOLECULARであるものを検索
#01  43261  RECORDS          ----- 応答番号#01、該当するもの43261件
```

2) キー項目を指定して、その中のキーワードに対して検索する方法。これが普通の方法かと思われまます。

```
INQUIRY? AU = "TANIGUCHI T"  ----- キー項目が原著者 (AU) でそのキーワードが
                                     TANIGUCHI T
#02      43 RECORDS
```

3) 検索のまえに、通覧をしておき、通覧番号の組み合わせによる方法。これは 3.2 BROWSE でも少し触れましたが、馴れて来ると便利な方法です。通覧時、その通覧番号の出力は #nnn でしたが、SEARCH の入力には、%で通覧番号を知らせます。

```
INQUIRY? %8_OR %23  ----- 通覧番号#008であるか通覧番号#023であるものを検索
#03      217 RECORDS
```

このような、データをだまかに見つけて行く検索方法を一次検索と言います。ほとんどの場合これら一次検索による検索結果の応答番号の組み合わせで十分検索できます。

```
INQUIRY? #2_AND #3  ----- 応答番号#02でかつ応答番号#03を同時に満たすものを
                               検索
```

```
#04      1 RECORDS
```

ところで、一次検索の結果を利用して、さらにきめの細かい検索も可能です。これを二次検索と言います。いずれにしても、キーワードの切りだし方および比較式や条件式を知る必要があります。以下に上記 2)、3) の詳細と二次検索について説明していきます。

記 号		意 味	形 式
EQ	=	等しいもの	1
NE	≠	等しくないもの	1
NR	: =	もっとも近いもの	2
GT	>	大きいもの	2
GE	> =	大きいか、等しいもの	2
LT	<	小さいもの	2
LE	< =	小さいか、等しいもの	2
WL	<>	範囲内 (両端を含む)	3
OL	><	範囲外 (両端を含まない)	3
ADJ	-	二つの比較値が隣接しているもの	3

表 - 3.3.1 比較番号

3.3.2 一次検索

INQUIRY? に対して下記の形式 1～4 で検索する場合、その形式のことを比較式といいます。これは、論理演算子 (AND(*), OR(+), NOT(^)) を組み合わせて記述することもできます。比較式における比較番号は、表-3.3.1 の通りです。また、比較値とは、キーワード(数値、文字列)、通覧番号、応答番号等です。特に、文字列に関しましては、二つの比較方法があります。

1) 完全一致による場合、例えばキーワード MOLECULAR や "TANIGUCHI T" 等の一単語です。しかし、通覧の所で述べましたが、次のような二単語から成るもの OSAKA UNIV. を " " や ' ' でくくっても検索結果は、0 件と出力されます。これは、AUTHOR (AU) 以外は単語間のデリミッタが (空白) だから、(AUTHOR のは、/) です。もちろん、データに "OSAKA UNIV." と " " 付きで登録されていれば別です。また、もちろんスペルの間違いも 0 件と出力されますから、BROWSE による通覧番号で検索されることを奨めます。

2) 前方一致による場合、これは、\$ の直前までをキーワードの左側と比較するものです。例えば、UNIV\$ のように UNIVERSITY か UNIV. でも意味の通じる場合や、始めのスペルだけで検索する場合などに便利です。

検索する場合の形式は次の通りです。形式表示中の () はブランクを表わします。

1 : 形式-1 キー項目 () 比較記号 () 比較値 [, 比較値 ...]

INQUIRY? AU = "TANIGUCHI T",FUJITA\$ -- キー項目が AU (原著者) 中にキーワードが
#01 12 RECORDS TANIGUCHI T または FUJITA\$ (前方一致)
に等しいものを検索

(, でつなぐのは、「または」を意味します。)

2 : 形式-2 キー項目 () 比較記号 () 比較値

INQUIRY? TI = HORMON\$ ----- キー項目が TI (標題) 中に HORMON で始まるキーワー
#02 356 RECORDS ドに等しいものを検索

3 : 形式-3 キー項目 () 比較記号 () 比較値 : 比較値

これは、比較記号 WL, OL, ADJ の場合に用います。WL, OL は、数値的な検索に適し、また、キーワード検索で、文字列が隣合わせに存在するものを検索する場合、ADJ 比較を用います (二つのキーワードの間にはデリミッタや不用語が存在していてもかまわない。また、キーワードの順序が逆になっていてもかまわない)。

INQUIRY? OG ADJ OSAKA:UNIV\$ ----- キー項目が OG (所属機関) で OSAKA と UNIV\$
#01 12 RECORDS (前方一致) が隣り合っているものを検索

次のものは、その対象となります。

OSAKA UNIVERSITY, SUITA
SETUNAN UNIV. OSAKA NEYAGAWA

次のものは、対象になりません。

OSAKA CITY UNIV.

4 : 形式-4 応答番号┌論理演算子┐応答番号

```
INQUIRY? #2 OR #3          ----- 応答番号#02または応答番号#03のものを検索
#05      48 RECORDS
```

この場合には、すでに、何回か検索を行って、その時に出力された応答番号を用います。

または 通覧番号┌論理演算子┐通覧番号

```
INQUIRY?%#8 AND %36      ----- 通覧したときその通覧番号#008でかつ通覧番号
#06      1 RECORDS          #036を同時に満たすものを検索
```

この場合は、さきに、通覧を行っておく必要があり、その時の通覧番号を用いるがシステムへの入力には、%を用います。

なお、一次検索に関しては、次のメッセージに対して、NOを入力すれば、次のような簡単な応答例を出力してくれます。

```
DO YOU KNOW HOW TO SEARCH?
YES OR NO? <Y/N>
N
NOW, LET'S SEARCH !      ----- 検索の例示
AFTER 'INQUIRY? ', ENTER THE KEYWORD WHICH YOU WANT TO SEARCH
FOR AUTHOR(AU), ORGANIZATION(OG), TITLE(TI), PUBLICATION(S2) OR YEAR(YR) ETC.
*** FOR EXAMPLE ***
* INQUIRY? AU = "KAWAI N" AND OG ADJ OSAKA$:UNIV$
* #01      12 RECORDS
* INQUIRY? TI = HORMON$
* #02      356 RECORDS
* INQUIRY? #1 AND #2
* #03      2 RECORDS
* INQUIRY? <--- -- ENTER RETURN-KEY
*** IF YOU DON'T WANT ' INQUIRY? ', HIT RETURN-KEY.
*** END OF EXAMPLE ***
```

3.3.3 二次検索

一次検索により、おおまかな検索をし、さらにきめの細かい検索をして、データをしぼり込む方法が二次検索です。ここでは、一時検索の時に比較記号と呼ばれたものが、条件記号と呼び変えられます。ちがいは、応答番号に対するファイルの中をストリング検索(例えば、文節を” ”でくくって検索)するため一次検索よりきめの細かい検索ができ、一次検索の形式-4がないこと、形

式-3の ADJ がないだけで、機能は同じです。また、比較式が条件式と呼び変えられ、一度の INQUIRY に五つまでの条件式が入力可能です。

ただ、文字列に関して大分便利になり、五種類の方法があります。

1) 完全一致、2) 前方一致 (ABCDE\$)、3) 後方一致 (\$ABCDE)、4) 中間一致 (\$ABC\$)、この2)~4) までは、\$を用います。5) 文字列の中にある一文字を?でマスクすることもできます (AB?CD)。

二次検索を行う場合は、一度は、一次検索を行っておかなければなりません。

二次検索を行うには、一次検索または二次検索を実行した時の応答番号をそのコマンドとして利用します。

```

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
S
DO YOU KNOW HOW TO SEARCH?
YES OR NO? <Y/N>
Y
INQUIRY? OG = MOLECULAR          ----- 一次検索でOGにMOLECULARのものを検索
#01    4295 RECORDS
INQUIRY? #1                          ----- 応答番号#01のものに対して二次検索をおこなう
CONDITION? AU = "TANIGUCHI T"
CONDITION? OG = "OSAKA UNIV."
CONDITION? TI = "HUMAN INTERFERON-BETA"
CONDITION? ↓                          ----- 二次検索の打ち切り
#02    1 RECORDS
GO ON TO SEARCH? <Y/N>
N
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

```

条件式 CONDITION? (最大5個)間の論理関係は、ANDです。ところで、二次検索にはシステムからの応答時間が少しかかります。この時、条件式に満たなくて 0 RECORDS と返ってくると、がっかりします。こんな時、往々にして、スペルの間違いであったりすることが、多いものです。ここで、著者の経験から少し助言をしますと、条件式は、せいぜい2つくらいで、次の INQUIRY? で、また、二次検索をする方がよい。または、一次検索の形式-4を利用する方が早いように思われます。

(注意:二次検索に入って第一番目の CONDITION? の所でリターンキーを入力するとエラーメッセージ

```
D710-B237 F EXPRESSION OF CONDITION IS ILLEGAL.
```

が出力されます。次いで

```
GO ON TO SEARCH? <Y/N>
```

でYを入力しますと再び、CONDITION? が返って来ますが、ここで、正しい入力をし終えます

と、応答番号とその時の検索件数が正しく出力され、再び GO ON TO SEARCH? <Y/N> と聞いて来ます。この時 Y を入力し、INQUIRY? に応じると応答番号が、直前のものより 2 大きい番号になっています。これは、第一番目の CONDITION? の所で一回、無駄検索したことによります。

```

INQUIRY? OG = MOLECULAR
#01 4295 RECORDS
INQUIRY? #1
CONDITION? ↓ ----- 二次検索にたいする不正入力
D710-B237 F EXPRESSION OF CONDITION IS ILLEGAL.
GO ON TO SEARCH? <Y/N>
Y
CONDITION? TI="HUMAN INTERFERON-BETA"
CONDITION? AU="TANIGUCHI T"
CONDITION? ↓
#02 17 RECORDS
GO ON TO SEARCH? <Y/N>
Y
INQUIRY? OG = SUITA#
#04 38 RECORDS ----- ここでの応答番号が前のより 2 大きい

```

すなわち、応答番号 #03 には何か無駄な検索内容があるわけです。))

3.3.4 検索の例

```

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
S
DO YOU KNOW HOW TO SEARCH?
YES OR NO? <Y/N>
Y
INQUIRY? OG = "OSAKA UNIV." ----- 一次検索を行う : 二単語を一度に見れない
0 RECORDS
INQUIRY? OG = "MOLECULAR AND CELLULAR" -- 上と同じ
0 RECORDS
INQUIRY? OG = OSAKA UNIV. ----- 上と同じだが、このような検索方法はない
D710-B210 F FORM OF INQUIRY IS ILLEGAL. -- D710からのエラーメッセージ
INQUIRY? TI = INTERFERON-BETA ----- キーワードとキーワードが不正に使われている(下例参照)
D710-B210 F FORM OF INQUIRY IS ILLEGAL. --- D710からのエラーメッセージ
INQUIRY? TI = "INTERFERON-BETA" ----- 上の単語の中に-や=(比較記号)等が含まれるキーワード
#01 45 RECORDS を検索する場合" "又は' 'でくくる。
INQUIRY? OG = MOLECULAR ----- キーワードの完全一致
#02 4295 RECORDS

```

```

INQUIRY? OG = "CELLULAR"          ----- キーワードの完全一致
#03      840 RECORDS

INQUIRY? TI = "HUMAN INTERFERON-BETA" ---- 二単語検索（一次検索では、この形で検索できない。）
          0 RECORDS

INQUIRY? #2                          ----- 二次検索に移る
CONDITION? OG = "OSAKA UNIV."        ----- 条件式入力への回答
CONDITION? TI = "HUMAN INTERFERON-BETA" ---- 文節検索（二次検索なら可能）
CONDITION? AU = "TANIGUCHI T"
#04      1 RECORDS
GO ON TO SEARCH? <Y/N>                ----- 条件式の終了
N
                                         ----- 条件式の終了で一度システムへ戻る
                                         (ここではYESまたはリターンキーでINQUIRY? へもどり、NOで次のカテゴリへ進む)
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

```

例 - 3.3.1

3.4 DISPLAY (表示)

3.4.1 DISPLAY コマンド

DISPLAY (表示) をする場合は、必ず SEARCH (検索) を済ませておいて下さい。検索せずに DISPLAY コマンドを実行すればシステムエラーを起こし、なかなか元に戻らなくなります。

```
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
```

で、DISPLAY の D を入力します (前のカテゴリが SEARCH でしたら N でも DISPLAY カテゴリになります)。システムからは、つぎのメッセージが出力されてきます。

```
DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>
```

これは、BIOSIS 提供の FORMAT 形式で出力表示するのか、大阪大学大型計算機センターの提供する FORMAT 形式で出力表示するのか、それとも出力しないのかを選択するダイアログです。上のダイアログで B を入力しますと、BIOSIS FORMAT を選択したことになり、次のメッセージが出力されます。

```

CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED
IN THE HEADING OF THE FORM '#NN RR RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY?'
ANSWER NUMBER?

```

SEARCH で検索内容をしばらくいった時の ANSWER NUMBER (応答番号) の内容を表示するためのダイアログです。(注意: SEARCH をせずに、DISPLAY コマンドを実行しますと、下記のメッセージが出力され、SEARCH (検索) に戻ります。それ以後は 3.3 SEARCH の通りです。

```

YET, YOU HAVEN'T SEARCHED ! SO, CAN'T DISPLAY !!
DO YOU KNOW HOW TO SEARCH?
YES OR NO? <Y/N>

```

↓

```
INQUIRY?
```

……リターンキーは、YESと同じ

…… SEARCH (検索) をする。

ところで、それでもなお、DISPLAYをおこないますと、D710 より次のメッセージが出されます。

```

D710-B506 F NO INQUIRY NUMBER EXISTS.
INQUIRY NUMBER?

```

このときは、リターンキーを続けますと、

```
DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>
```

のメッセージが出力されBSAUTOに戻ります。ここでEを入力して下さい。このシステムの暴走は、D710 でも処置されておりませんが、BSAUTOでは元に戻りますのでご安心ください。ただし、終了時にはREMO CLEARFILESを入力しておいてください。3.5 BSAUTOの終了参照)

3.4.2 BIOSIS FORMAT

BIOSIS から提供されたFORMATでの出力を望む場合は以下のとおりです。

```

DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>
B
CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED
IN THE HEADING OF THE FORM '#NN RR RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY?'
ANSWER NUMBER?

```

ダイアログでB, 続いて応答番号例示では4を入力しますと、BIOSIS FORMATで検索番号4の内容を出力せよとすることを示します。なお、ANSWER NUMBER? でリターンキー入力しますと、検索を続けて行った時の最終の応答番号すなわち、DISPLAYの直前の応答番号を意味します。上のメッセージに続いてシステムから次のメッセージが出力されます。

```

DISPLAY STARTING POINT?
DISPLAY COUNT?

```

表示を始めるのは、何件目から、何件出力しますか?と尋ねてきます。ここで、希望の件数を入力します。ここでも、リターンキー入力ですと応答番号に表われていた件数を第一件目から全件数を出力します。例えば、

#04 15 RECORDS で ANSWER NUMBER? に対して4を入力すれば、その件数は15件ですからリターンキー入力では、1件目から15件全部出力することになります。

FORMAT は以下の通りです。

応答番号と件数

BIOSIS 抄録番号= 雑誌コード= 巻= 号= 刊行年=
 ページ= 出版物名(始めから40文字まで)=
 出版物名(全文字)=
 使用言語=
 著者名=
 標題=
 付加語=
 所属機関=
 概念コード=
 生物分類コード=

実際の出力例は以下の通りです。

```

#04          1 RECORDS
          1/1
BN=80058336  CD=CELLB  VL=41          IS=2          YR= 1985
PG=489-496          SI=CELL
S2=CELL
LG=EN
AU=FUJITA T/OHNO S/YASUMITSU H/TANIGUCHI T/
TI=DELIMITATION AND PROPERTIES OF DNA SEQUENCES REQUIRED FOR THE REGULATED EXP
    RESSION OF HUMAN INTERFERON-BETA GENE
AW=MOUSE L-929 CELL VIRAL GENE INDUCTION MESSENGER RNA TRANSCRIPTION
OG=INST. MOLECULAR AND CELLULAR BIOLOGY, OSAKA UNIV., SUITA-SHI, OSAKA 565, JAP
AN.
CC=02506-  03508#  10052  10062-  10064  10068  10300-
          10506-  13004-  13012-  13014-  32500  33506  36006
BC=86215
    
```

例- 3.4.1

3.4.3 HANDAI FORMAT

これは、大阪大学大型計算機センターが提供する出力形式です。一応、論文等の参考文献様式にしてあります。

```

DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>
H
CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED
    
```

IN THE HEADING OF THE FORM '#NN RR RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY?'
ANSWER NUMBER?

4

WAIT A MINUTE

ダイアログでH, 続いて応答番号を入力しますと、HANDAI FORMATで検索番号の内容を出力せよと言うことを示します。応答番号を入力しますと、WAIT A MINUTE (ここでBIOSISのファイルをシステムのワークファイル(ファイルコード56)にコピーしますので、しばらく待たされます。)のメッセージに続き、表示開始件数番号を尋ねて来ます。リターンキーを入力しますと、一件目から開始することを意味します。次いで、表示件数を尋ねて来ますが、ここで、リターンキーを入力しますと、応答番号に該当する内容の件数を最大100件まで出力します。

出力形式は、以下の通りです。

BIOSIS 抄録番号 雑誌コード= 使用言語

著者名 :

所属機関 :

標題 :

出版物名(全文字):

巻 号 ページ 刊行年

付加語 :

そして、さらに出力が終われば、つぎに、概念コードと生物分類コードの出力を尋ねてきます。必要ならYESを入力します。この場合は、BIOSIS FORMATの時とおなじです。

実際例は以下の通りです。

PRINT NO. 1

BIOSIS NO.80058336 CODEN=CELLB LANGUAGE / EN

AUTH : FUJITA T/OHNO S/YASUMITSU H/TANIGUCHI T/

ORGA : INST. MOLECULAR AND CELLULAR BIOLOGY, OSAKA UNIV., SUITA-SHI
, OSAKA 565, JAPAN.

TITL : DELIMITATION AND PROPERTIES OF DNA SEQUENCES REQUIRED FOR THE
REGULATED EXPRESSION OF HUMAN INTERFERON-BETA GENE

PUBL : CELL

VOL.41 ,NO.2 PP.489-496 , 1985

ADWD : MOUSE L-929 CELL VIRAL GENE INDUCTION MESSENGER RNA TRANSCRIPTION

----- ここまでが、HANDAI FORMAT

DO YOU WANT TO PRINT OUT CC-NUMBER AND BC-NUMBER?

YES OR NO? <Y/N>

Y

CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED
IN THE HEADING OF THE FORM '#NN RR RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY? '
ANSWER NUMBER?

4

DISPLAY STARTING POINT? ↓

DISPLAY COUNT? ↓

#4	1/1					
CC=02506-	03508#	10052	10062-	10064	10068	10300-
10506-	13004-	13012-	13014-	32500	33506	36006
BC=86215						

DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>

E

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

例- 3.4.2

3.4.4 表示の例

ここでは、SEARCHの途中から示しています。

```

INQUIRY? QG = MOLECULAR          ----- 一次検索から始める。
#01 4295 RECORDS
INQUIRY? #1                      ----- 二次検索に移る。
CONDITION? QG = "OSAKA UNIV.?"
CONDITION? TI="HUMAN INTERFERON-BETA"
CONDITION? AU ="TANIGUCHI T"
CONDITION? ↓                      ----- 二次検索の終了
#02 1 RECORDS
GO ON TO SEARCH? <Y/N>
N
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
D ----- 表示を行う
DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>
H ----- HANDAI FORMATで表示する
CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED
IN THE HEADING OF THE FORM '#NN RR RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY? '  
ANSWER NUMBER?
2 ----- 応答番号#2の内容を表示する

```

WAIT A MINUTE

DISPLAY STARTING POINT? ↓

DISPLAY COUNT? ↓

PRINT NO. 1 ----- 以下、出力結果

BIOSIS_NO.80058336 CODEN=CELLB LANGUAGE / EN

解 説

AUTH : FUJITA T/OHNO S/YASUMITSU H/TANIGUCHI T/
ORGA : INST. MOLECULAR AND CELLULAR BIOLOGY, OSAKA UNIV., SUITA-SHI
, OSAKA 565, JAPAN.
TITL : DELIMITATION AND PROPERTIES OF DNA SEQUENCES REQUIRED FOR TH
E REGULATED EXP RESSION OF HUMAN INTERFERON-BETA GENE
PUBL : CELL
VOL.41 ,NO.2 PP.489-496 , 1985
ADWD : MOUSE L-929 CELL VIRAL GENE INDUCTION MESSENGER RNA TRANSCRIP
TION
DO YOU WANT TO PRINT OUT CC-NUMBER AND BC-NUMBER?
YES OR NO? <Y/N>
Y ----- GC, BC-NUMBER を必要とする
CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED
IN THE HEADING OF THE FORM '#NN RR RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY? '
ANSWER NUMBER?
2 ----- 応答番号#2のもの
DISPLAY STARTING POINT? ↓ ----- 始めから
DISPLAY COUNT? ↓ ----- 全部
#2 1/1 ----- 出力結果
CC=02506- 03508# 10052 10062- 10064 10068 10300-
10506- 13004- 13012- 13014- 32500 33506 36006
BC=86215
DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>
E ----- 表示の終了
BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

例 - 3.4.3

3.5. BSAUTOの終了

BSAUTO の終了は、各カテゴリの終了時のメッセージで END の E を入力すれば次のメッセ
ージが出力されるので、その内の終了である FINISH の F を入力すればよい。

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>
E
CONTINUE UNDER SAME RECORDSET OR ANOTHER OR FINISH? <S/A/F>
E
END OF BIOSIS
SYSTEM? REMO CLEARFILES ----- AFTからの除去
SYSTEMI?

なお、DISPLAYの次のカテゴリは、終了ですから、この時は、NEXTのNでもいいです。ま

た、別のレコードセットを検索する場合も一度ENDのEを入力し、ANOTHERのAを入力して下さい。

ところで、END OF BIOSISの後にSYSTEM?または*が出ればREMO CLEARFILESを入力してAFT (TSSで使っているワークファイルやパーマネントファイルを登録しておくシステムテーブル)に登録してあるファイルをREMOVEしておいて下さい。これは、HANDAI FORMのときに使用したテンポラリファイル(ファイルコード56)がAFT(Available File Table; 現在システムで使用中のファイルを登録しておくシステムテーブルのこと)にその器だけ登録されているからです。これをせずにBYE コマンドを入力しますと、テンポラリファイルが残っています。どうしますか?とたずねられます。このときリターンキ入力をおねがいします。

3.6 大学間 NETWORK の呼び出し方

九州大学大型計算機センターの利用者が大阪大学大型計算機センターを利用する場合、予め、大阪大学大型計算機センターに利用登録をしておく必要があります。現在、全国共通利用番号制度が実施されましたので簡単に登録できます(登録方法は、センターニュース等を参照)。ここでは、NETWORK の呼び出しから大阪大学大型計算機センターの利用と終了の仕方を述べます。

```

ENTER USER ID -
A12345
+ PASSWORD ?
PASSWORD
KDS700011 A12345A LAST ACCESS AT 16:24:09 ON 86.179
JOB NO = TSU4789 CN(01)
KEQ564551 A12345A LOGON IN PROGRESS AT 16:24:47 ON JULY 1, 1986
NO BROADCAST MESSAGES
READY
NVT                      ----- ネットワークの呼びだし
OPEN_OSAKA              ----- 大阪大学システムの呼びだし
KCQ101241 CONNECTED TO HOST - OSAKA
                      ----- 以下、大阪大学システム

HANDAI TSS(R1.0) ON 07/01/86 AT 16:26:39 CHANNEL 7605 --ここから、大阪大学のシステムが始まる
USER ID -A12345:A$PASSWORD
< < ... 25611 YEN RESOURCE USED (AVAILABLE .. 474389 YEN ) >>>>
<<<<< .... 9789 LLINKS FILE SPACE USED >>>>

## 9:13:34##TSS WILL SIGN OFF AT 22:00

SYSTEM ?BSAUTO          -----BIOSISの呼びだし
*****

END OF BIOSIS
SYSTEM ?REMOVE_CLEARFILES -----AFTの整理

```

```

SYSTEM ?BYE                      ----- 大阪大学システムをログオフする

**USED RESOURCE,,,,,CPU=2SEC CON=7.0MIN T-ID="5
**COST; ¥18

**NETWORK COST: 000081.00¥
  1101181 DISCONNECTED LINK BY HOST : OSAKA
NVT
END
KCQ101021 NITSS-G USER ENDED
READY

```

例-3.6.1

3.7 実行例

ここでは、はじめから通して実行してみます。 実行例で、下線は端末からの入力を示します。

```

ENTER USER ID -
A12345
+ PASSWORD ?
PASSWORD
KDS700011 A12345A LAST ACCESS AT 12:09:09 ON 86.179
JOB NO = TSU4789 CN(01)
KEQ564551 A12345A LOGON IN PROGRESS AT 16:24:47 ON JULY 1, 1986
NO BROADCAST MESSAGES
READY
NVT                      ----- ネットワークの呼びだし
OPEN_OSAKA              ----- 大阪大学システムの呼びだし
KCQ101241 CONNECTED TO HOST - OSAKA
                      ----- ここから大阪大学システム
HANDAI TSS(R1.0) ON 07/01/86 AT 16:26:39 CHANNEL 7605

USER ID -A12345A$PASSWORD
<< : ... 25611 YEN RESOURCE USED (AVAILABLE .. 474389 YEN ) >>>>
<<<<< .... 9789 LLINKS FILE SPACE USED >>>>>

```

```

** 9:13:34**TSS WILL SIGN OFF AT 22:00

```

```

SYSTEM?BSAUTO              ----- BIOSIS データベース・システムの呼びだし
*****
* WELCOME TO BIOSIS *
*****

*****
* CAUTION !! FOR AN INFRINGEMENT OF COPYRIGHT *
* NEVER OUTPUT TO FLOPPYDISK OR DISK-FILE ETC.! *
*****
WAIT A MINUTE

```

USE THE RECORDSET NAMES WITH THE NUMBERS (RETURN-KEY TO EXIT).

NO RECORDSET NAME	COMMENT	
#01 BA85	BA (1985. VOL79 & VOL80)	: 220008REC
#02 RRM85	BA/RRM(1985. VOL28 & VOL29)	: 220004REC
#03 BA86	BA (1986. VOL81#1-5)	: 48960REC
#04 RRM86	BA/RRM(1986. VOL30#1-5)	: 51726REC
#05 BACURR	BA (1986. VOL81#5)	: 9792REC
#06 RRMCURR	BA/RRM(1986. VOL30#5)	: 10122REC

RECORDSET NUMBER?

1

RECORDSET NUMBER?

2

RECORDSET NUMBER?

3

----- レコードセットの選択

RECORDSET NUMBER?

4

RECORDSET NUMBER?

↓

----- Return-key 入力によりレコードセットの選択終了

WAIT A MINUTE

STARTING OF RETRIEVE PROCEDURE.

BROWSE, SEARCH OR END ? <B/S/E>

B

----- BROWSE (通覧) の指定 (KEYWORD による通覧)

ENTER ITEM NAME ---> AU(AUTHOR), OG(ORGANIZATION), ---- 通覧すべき ITEM (項目) と、その一覧
 TI(TITLE), S2(PUBLICATION), CC(CONCEPT CODE),
 BC(BIOSYSTEMATIC CODE), AW(ADDED WORD) OR RETURN-KEY(ALL OF ITEMS)

OG

----- 所属機関 (OG) の ITEM についての情報を得る。

ENTER A KEYWORD OF YOUR INTEREST.

NEVER SKIP !!

=>

MOLECULAR

----- 通覧すべきキーワードの値を入力する。

NO. RECORD	KEYWORD (ITEM=ORGA)	----- アイテム名 ORGA(=ORGANIZATION: 所属機関等)
#001	1 MOLECOLARE-11	
#002	8 MOLECOLE	
#003	5 MOLECUALR	
#004	1 MOLECUAR	
#005	1 MOLECULAIR	
#006	276 MOLECULAIRE	
#007	16 MOLECULAIRES	
#008	4296 MOLECULAR	
#009	1 MOLECULAR-PHYSICAL	
#010	1 MOLECULARBIOL	
#011	7 MOLECULARE	
#012	1 MOLECULARES	
#013	10 MOLECULARIE	
#014	1 MOLECULARE	
#015	1 MOLECULE	

解 説

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

B

ENTER ITEM NAME ---> AU(AUTHOR), OG(ORGANIZATION),
TI(TITLE), S2(PUBLICATION), CC(CONCEPT CODE),
BC(BIOSYSTEMATIC CODE), AW(ADDED WORD) OR RETURN-KEY(ALL OF ITEMS)

OG

ENTER A KEYWORD OF YOUR INTEREST.
NEVER SKIP !!

=>

CELLULAR

----- 通覧すべきキーワードの値を必ず入力する。

NO. RECORD	KEYWORD (ITEM=ORGA)
#016	7 CELLS
#017	2 CELLTECH
#018	1 CELLULAIRES
#019	1 CELLULAIR
#020	267 CELLULAIRE
#021	45 CELLULAIRES
#022	840 CELLULAIRES-LA
#023	840 CELLULAR
#024	96 CELLULARE
#025	1 CELLULARI
#026	6 CELLULARIE
#027	1 CELLULAURES
#028	2 CELLULE
#029	15 CELLULES
#030	2 CELLULIKE

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

S

----- SEARCH (検索) の開始

DO YOU KNOW HOW TO SEARCH?

YES OR NO? <Y/N>

----- 検索の仕方がわからない場合 NO を入れれば以下
に例示してくれる。

N

NOW, LET'S SEARCH !

----- 検索の例示

AFTER ' INQUIRY? ', ENTER THE KEYWORD WHICH YOU WANT TO SEARCH
FOR AU(AUTHOR), OG(ORGANIZATION), TI(TITLE), S2(PUBLICATION) OR YR(YEAR) ETC.

*** FOR EXAMPLE ***

* INQUIRY? AU = "KAWAI N" AND OG ADJ OSAKA\$:UNIV\$

* #01 12 RECORDS

* INQUIRY? TI = HORMON\$

* #02 356 RECORDS

* INQUIRY? #1 AND #2

* #03 2 RECORDS

* INQUIRY? <--- -- ENTER RETURN-KEY

*** IF YOU DON'T WANT ' INQUIRY? ', HIT RETURN-KEY.

*** END OF EXAMPLE ***

INQUIRY? #8 AND #23

----- 通覧番号#008と#023を同時に満たすものを検索

#01 3183 RECORDS

----- 出力結果 3183 件あり

INQUIRY? #1

----- 応答番号#01について二次検索を行う

CONDITION? OG = "OSAKA UNIV."
 CONDITION? TI="HUMAN INTERFERON-BETA"
 CONDITION? AU="TANIGUCHI T"
 CONDITION? ↓
 #02 1 RECORDS

GO ON TO SEARCH? <Y/N>
 N

----- 検索の打ち止め

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

D

DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>

B

----- BIOSIS 提供型式で表示する。

CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED

IN THE HEADING OF THE FORM '#NN II RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY? '

ANSWER NUMBER? ↓

---- 何番目の検索結果を表示するのか?ここでは直前の検索結果

DISPLAY STARTING POINT? ↓

----- 表示開始は何件目から何件表示するのか?

DISPLAY COUNT? ↓

(Return-keyは、始めから全部を表示する。)

----- 以下、BIOSIS での出力結果

#02 1 RECORDS

1/1

BN=80058336 CD=CELLB VL=41 IS=2 YR= 1985

PG=489-496 S1=CELL

S2=CELL

LG=EN

AU=FUJITA T/OHNO S/YASUMITSU H/TANIGUCHI T/

TI=DELIMITATION AND PROPERTIES OF DNA SEQUENCES REQUIRED FOR THE REGULATED EXP
 RESSION OF HUMAN INTERFERON-BETA GENE

AW=MOUSE L-929 CELL VIRAL GENE INDUCTION MESSENGER RNA TRANSCRIPTION

UG=INST. MOLECULAR AND CELLULAR BIOLOGY, OSAKA UNIV., SUITA-SHI, OSAKA 565, JAP
 AN.

CC=02506- 03508* 10052 10062- 10064 10068 10300-

10506- 13004- 13012- 13014- 32500 33506 36006

BC=86215

----- ここまでBIOSIS FORMATでの出力結果

DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>

H

----- センター提供のプログラムにより出力結果を見易く編
 集して出力する。

CHOOSE ONE OF THE ABOVE ANSWER NUMBERS WHICH APPEARED

IN THE HEADING OF THE FORM '#NN II RECORDS' AT THE ANSWER OF 'INQUIRY? '

ANSWER NUMBER? ↓

----- 直前の検索結果、ここでは応答番号 #02

WAIT A MINUTE

DISPLAY STARTING POINT? ↓

= => 注; このプログラムでは、その検索番目の表示にあっ
 た件数を出力する。例えば、#2では、1 件分が出力
 される。

DISPLAY COUNT? ↓

解 説

PRINT NO. 1 ----- 以下、HANDAI FORMATでの出力結果

BIOSIS_NO.80058336 CODEN=CELLB LANGUAGE / EN
AUTH : FUJITA T/OHNO S/YASUMITSU H/TANIGUCHI T/
ORGA : INST. MOLECULAR AND CELLULAR BIOLOGY, OSAKA UNIV., SUITA-SHI
, OSAKA 565, JAPAN.
TITL : DELIMITATION AND PROPERTIES OF DNA SEQUENCES REQUIRED FOR THE
REGULATED EXPRESSION OF HUMAN INTERFERON-BETA GENE
PUBL : CELL
VOL.41 ,NO.2 PP.489-496 , 1985
ADWD : MOUSE L-929 CELL VIRAL GENE INDUCTION MESSENGER RNA TRANSCRIPTION

----- ここまで、HANDAI FORMATでの出力結果

DO YOU WANT TO PRINT OUT CC-NUMBER AND BC-NUMBER?

YES OR NO? <Y/N>

N

----- CC, BC-NUMBER を必要としない

DISPLAY -- BIOSIS FORMAT OR HANDAI FORMAT OR EXIT? <B/H/E>

E

----- DISPLAY の打ち切り

BROWSE, SEARCH, DISPLAY, END OR NEXT? <B/S/D/E/N>

E

----- 現在のレコードセット(#01,#02,#03,#04)を終わる

CONTINUE UNDER SAME RECORDSET OR ANOTHER OR FINISH? <S/A/F>

E

----- BSAUTO を終わる(別のレコードセットを検索する時は、A)。

END OF BIOSIS

----- BIOSIS の終了メッセージ

SYSTEM? REMO CLEARFILES

----- AFTを一度クリアする。

SYSTEM ?BYE

----- 大阪大学システムをログオフする

**USED RESOURCE,,,,,CPU=2SEC CON=7.0MIN T-ID="5

**COST; ¥18

**NETWORK COST: 000081.00¥

KCQ101181 DISCONNECTED LINK BY HOST : OSAKA

NVT

END

KCQ101021 NITSS-G USER ENDED

READY

例-3.7.1

参考文献

FXK 72-6 ACOS アプリケーションシステム ACOS-6 データ応用システム検索ガイド

< DATA -710 >